

学校教育目標	まちに、ひとに、じぶんに、 感動！ わくわく！ いきいき！ かわいっこ！				
	○基礎基本を身につけ、自ら判断し、主体的に活動できる子ども(知) ○互いのよさを認め、思いやりの心をもって接する子ども(徳) ○心と体を鍛え、自分や他の生命を大切に子ども(体) ○社会のルール、マナーを守り、地域の人や環境を大切に子ども(公) ○地域社会への視野を広げ、共に生きる子ども(関)				
学校概要	創立 51 周年	学校長 窪田剛久	副校長 西原千輪子	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 332 人		主な関係校: 都岡中学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力>	都岡中学校 都岡小学校 上川井小学校	主体性を身に付け、互いの良さを認め合う心豊かな子ども ・「基礎学力の定着を図る」ことを目的として4校合同の研修会を実施する。 ・テーマを決めて4校合同授業参観を実施する。また、教科ごとの9年間を見通したカリキュラムの確認を行う。 ・交流日を2回行う。

中期取組目標	○落ち着いた環境の中で、子どもたちが「感動、わくわく、いきいき」と学習活動に取り組む学校にします。 ・個別最適な学びを充実させることでわかる喜びを味わい、子どもたちが進んで考えたり、表現したりできるようにします。 ・協働的な学びを通して自己有用感を高めるとともに、身の回りの方々を価値のある存在として尊重して過ごせるようにします。 ・多様な人とかかわることで、児童が主体的に健やかな体をつくれるようにします。 ・児童一人一人が公德心や豊かな人権感覚をもてるように組織的に支援します。 ・地域環境を生かした教育活動を充実させ、児童がまちのよさに気づき、進んでかかわるようにします。
---------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①学習におけるタブレット端末の有効な活用法について、教職員間での情報共有を充実させる。また身に付けたICT技能の一覧を作成し、学年に応じた指導を行っていく。②全学年で通年、一部教科分担任制を取り入れ、子どもたちの学習意欲の向上と教師の専門性を生かした授業改善を行っていく。
担当	学力向上主担当	
徳	豊かな心	① たてわり活動のねらいを全職員で共有し、各学級や学年に応じたためあてを持たせる。また、経験や活動を通して、たてわり活動の内容ややり方を理解し、見通しをもって活動できるようにする。② たてわり班やペア学年を決め、様々な行事等と連携して関わらせることで、他の学年との交流を深めながら、活動に主体的に取り組む意欲をもてるようにする。
担当	たてわり主担当	
体	健やかな体	①運動会を始めとする運動に関する活動に、児童がめあてをもって取り組めるようにする。②児童が生活習慣を整える力を育てるように、学校医と連携しながら啓発や指導を行う。③「給食指導スタンダードの振り返り」と「栄養士からの助言」を中心とした食育研修を夏に実施する。全職員で共通理解のもと指導にあたる。
担当	体づくり主担当	
公開	地域学校協働活動	①教育課程全体で育成を目指す資質能力としての「自分づくりに関する力」の具現化について共有を図り、本校の児童や学校行事への理解を深めていただくために、ホームページや学校便りを通して情報発信を積極的に行う。②学校運営協議会委員による学校関係者評価の精度を高めるために、学校運営協議会委員が授業や行事を参観する機会をもつ
担当	学校運営協議会担当	
いじめへの対応		①月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、いじめ認知された案件やいじめリスクが心配される児童についての情報共有をていねいに行うことで発生防止に努める。②児童アンケートにより、児童の変化を見逃さない組織的な動きをするとともに、各ブロックの実態に応じた人権意識を高める声かけや支援方法を検討し、実践していく。
担当	いじめ防止対策主担当	
人材育成・組織運営(働き方)		①「授業づくり」と「ライフワークバランス」の充実をさら推し進める組織運営を目指す。②「持続可能な学校のあり方を探るモデル校」としてのこれまでの取組を検証し、児童・教職員が充実した日々を送れるように工夫改善する。③教職員同士のコミュニケーションの活性化を目指し、さらに働きやすい職場環境を目指す。
担当	育成研・学校評価委	
特別支援教育		①子どもの不安や困り感に即した支援ができるよう、研修を通して、子どもの実態をアセスメントする力を高める。②年間を通して個別の支援計画・指導計画を計画的に活用し、具体的な支援を継続していく。③ ケース会議の開催、特別支援学年研、川井っ子教室の充実、職員会等での情報共有を通して、組織的に児童を支援していく。
担当	特別支援主担当	
児童指導		①フロア・ブロック学年研は引き続き行い、話し合う内容を児童指導のみに絞る。会議後、児童指導部が集まり情報共有を行うことで、全学年に共有すべき案件に対して迅速に対応できるようにする。②生活目標を全校で同じ内容にすることで、全職員で統一した指導ができるようにしていく。学年研や朝会で効果的に振り返りをしていく。
担当	児童指導主担当	
学校行事の充実		①カリマネ要領に基づいた各行事のねらいを具体的に設定し、指導に当たる職員が明示的に指導をすることを通して、児童の資質・能力を向上させる。②参加する児童が見通しを持ち、主体的に取り組めるよう十分に事前指導を行い、実施後にはねらいに対応した振り返りを通して、児童が成長を実感できるようにする。
担当	アクティ部	
人権教育		①人権週間では、仲間に認められる体験を通して、「自分も他の人も大切にできる心」を育むとともに、児童の人権感覚、人権意識を育てる。②どの児童も安心して豊かに学校生活を送れるように、いじめ防止委員会の時間に子どもの様子を情報共有し、ブロック・学年研等の時間に支援方法を検討したり、指導の視点を共有したりする。
担当	人権・福祉主担当	